

| | |
|---------------------|---|
| 研究テーマ | 児童生徒一人一人の資質・能力を育む授業作りの在り方 ～主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導・支援の工夫を通して～ (三年計画二年次) |
| 研究目標 | 児童生徒の主体的・対話的で深い学びの姿について、石巻支援学校としての具体的な姿、捉えの共有を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導・支援の工夫を検討することを通して、児童生徒一人一人の資質・能力を育む授業作りの在り方を明らかにする。 |
| 研究内容 方法 研究計画等 | <p>(1) 主体的・対話的で深い学びの具体的な姿、捉えの共有化を図る研修会、ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」についての捉えの共有化を図る研修会を行う。 ・ワークショップ型の検討会を実施し、単元題材のそれぞれの学習内容における児童生徒の主体的・対話的で深い学びの具体的な姿について考察し、石巻支援学校としての具体的な姿、捉えの共有化を促進する。 <p>(2) 「主体的・対話的で深い学びの視点シート」の作成と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人一人の目標到達に迫る、主体的・対話的で深い学びの視点に基づいた指導支援の工夫について検討し、主体的・対話的で深い学びの視点シートを作成する。 <p>(3) 児童生徒一人一人の資質・能力を育む授業作り、授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導・支援の工夫等について、検討し、児童生徒一人一人の資質・能力を育む授業作り、授業実践を行う。 ・研究授業を行い、事後検討会において成果と課題について検討する。 <p>(4) 既存のツールや資料の共有化の促進と実用性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで作成したツールや資料の共有化の促進と実用性の向上を図る。 |
| 研究の概要 ・研究成果等 | <p>○成果</p> <p>学部授業研究、全校授業、各授業の事後検討会等を通して児童生徒の目標到達に向けた主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導・支援の工夫について検討・考察、意見交換をすることができた。児童生徒一人一人の的確な実態把握に基づいた目標や内容の設定、主体的・対話的で深い学びの視点に基づく個々の目標到達のために必要な手立ての工夫に重点を置き、実践を積み重ねることができた。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けては、その捉えや何をねらうのか、どういった方法で授業を展開するのかなどについて、学校の実態、児童生徒の実態や経験等を踏まえることが大切である。授業実践、事後検討会の積み重ねは、石巻支援学校の実態に応じて「主体的・対話的で深い学び」の視点を具体化して教職員間で共有し、組織的に日々の授業作り、授業改善の取組を活性化していくことにつながったものと考える。主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく単元や題材など内容や時間のまとめを見通して考えることが重要である。主体的・対話的で深い学びの実現に向けては、単元や題材など内容や時間のまとめをどのように構成するかというデザインを考えることが重要である。また、あくまで指導・支援の工夫は、児童生徒一人一人の目指すべき資質・能力の育成、三つの柱に基づいた目標の到達が目的であり、そのための効果的な方法として主体的・対話的で深い学びの視点がある。主体的・対話的で深い学びが指導の目的ではないことをあらためて、共通理解することができた。</p> <p>●課題</p> <p>主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導・支援の工夫について、さらに検討・考察していくためには、児童生徒の目標到達に向けた主体的・対話的で深い学びの視点に基づく授業実践のさらなる充実が必要である。的確な実態把握に基づいた児童生徒一人一人の目標や指導内容の設定、主体的・対話的で深い学びの視点に基づく個々の目標到達のために必要な手立ての工夫に重点を置き、実践を積み重ねが必要である。</p> <p>児童生徒が、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これから時代に求められる資質能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようするために、これまでの学校教育の蓄積も生かしながら、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要である。</p> <p>「児童生徒一人一人の資質・能力を育む授業作りの在り方」というテーマの下で実践と振り返りを繰り返していくプロセスを大切にしていくことが、本校の児童生徒にとっての「主体的・対話的で深い学び」について、全教員で話し合い、検討を重ねながらイメージを共有した上で、テーマに迫る大きな手掛けりになるものと考えている。「何ができるようになるか」「何を学ぶか」だけでなく、「主体的・対話的で深い学び」の視点から「どのように学ぶか」も重視して授業作り、授業改善を行い、P D C Aサイクルで実践を検証するなど、カリキュラム・マネジメントを確立して、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図っていくことが大切である。</p> |